

また、この駅北大火の復興、そしてにぎわいづくりというのは、決して行政だけでできるものではないと思います。やはり市民の皆様方や、またその被災にお遭いになった住民の皆様方や事業者の皆様方、そして商店街の皆様方、一体となって取り組んでいかなくてはいけない。そして、これは駅北だけの地域だけのものではなくて、市内全域の中で取り組んで、そして資源をどのように生かしながら連携をとっていけるかというところになっていかなくてはだめだと思っております。そのようなことで、今非常に言われたことに対しては、非常に難しい課題だと思っております。

しかし、これはやはり乗り越えていきたいと思っておりますので、また、変わらぬご支援いただきたいことをお願い申し上げます、お答えさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

最後に米田市長、ありがとうございました。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

再開を11時13分といたします。

〈午前11時07分 休憩〉

〈午前11時13分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

創生クラブの中村です。

さきに通告いたしました糸魚川市の自殺対策について、1回目の質問を行います。

平成18年に自殺対策基本法が制定され、自殺者数は大幅に減少しましたが、新潟県においては、全国でも自殺率が非常に高く、依然として毎年600人を超える自殺者が出ており、平成24年には全国で最悪の状況になり、県では「新潟県自殺予防対策推進宣言」を発令し、自殺者撲滅に取り組んでいくことを宣言いたしました。

また、国でも平成28年に自殺対策基本法が改正され、糸魚川市においても昨年12月に「糸魚川市自殺対策計画」を策定し、市の実態を踏まえた自殺対策の見直しを行い、全庁的な取り組みを

行うと定めていますが、今後どのような取り組みを行っていくのか、次の4点について伺います。

(1) 糸魚川市での主な自殺原因と年齢層を伺います。

(2) 市教育委員会では、児童生徒への自殺防止教育または命のとうとさをどのように教育しているのか伺います。

(3) 糸魚川市の自殺対策計画策定に対し、県はどのようにかかわってきたのか。また、今後どのようにかかわっていくのか伺います。

(4) 昨年9月の自殺予防週間ではどのような啓発を行ったのか。また、3月の自殺対策強化月間にはどのような事業を計画しているのか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、自殺は多様な要因が連鎖する中で起きていると言われており、本市においては、その1つの要因として健康問題が多く上がっています。自殺者数が最も多い年齢層は、70代であります。

2点目につきましては、日ごろの道徳や生徒指導等の中で子供たちが意識を高める、この指導と支援を行っております。

3点目につきましては、県は委員として参画いただき、ご意見をいただいております。また、今後のかかわりにつきましては、自殺対策の推進と取り組みの進捗管理を行う健康づくり推進協議会に参画いただき、主に働き盛り世代の自殺対策に取り組んでいくことといたしております。

4点目につきましては、9月には各種イベントを通じて意識づけを行い、10月に広報で相談窓口を紹介いたしております。3月には、市民講座等を開催するとともに広報で特集を取り組み、普及啓発に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

ありがとうございました。自殺の原因は、失業、倒産、多重債務、そして健康問題や家庭問題などさまざまな問題を抱え、鬱病になり自殺に走ってしまうということでもあります。糸魚川市見ると、男性の自殺者が多いのが特徴のようですが、今ほどの健康問題というところで片づけられると、自殺予防にならないのではないかなど。もう少し細かく分析していく必要があるのではないかなどというふうに思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

自殺の原因や動機については、警察庁の統計を見ますと、健康問題に続き、不詳も多くなっております。背景には、今、議員がおっしゃったとおり社会問題が大きく絡み、さまざまな要因が重なったり複雑に関係していると言われておりますので、慎重な考察が必要であると考えております。県が、県内の自殺者の原因・動機を年代別、男女別で詳細に集計をしておりますので、それらを参考にしながら、今後も予防対策に生かしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

今ほど自殺の多い年代として70歳代という話がありましたが、原因としては、今ほど申し上げましたように失業や倒産、そしてギャンブル等の多重債務から来るストレス、そして鬱病に走り、その後、鬱病になり、その後、自殺に走っていくんだというふうに言われています。

上越市では、もう今年の3月に、既に自殺予防対策推進計画を策定いたしております。自殺予防に向けた相談窓口の拡充や医療機関との連携による自殺未遂者支援地域連携体制の構築を進め、病院との連携に力を入れておりますが、糸魚川市では、今のところ病院とどのような情報交換を行っているのか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

当市におきましても市内の医療機関、市外の医療機関とは、随時、ケースの対話を通して連携を図っております。また、糸魚川管内においては、医療機関に加えまして関係団体も参加し、自殺対策推進検討会やハイリスク者連携会議を行っております。また、上越管内で行っております上越いのちとこころの支援センター業務連絡会に糸魚川市も参画いたしまして、自殺の現状と課題を共有し、対策を協議しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

多くのとこと取り組んでいるということではありますが、糸魚川市は、いのちとこころの応援団という組織があるんですが、これはどのような組織なのか、また今のところ41社、私の手元では41社になっているんですが、今後ふやしていくのか、どういう取り組みをしてるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

いのちとこころの応援団につきまして、今ちょっと手元に資料がなくて、申しわけございません。高齢者における見守りネットワークなどの活用におきまして、高齢者の見守り支援に取り組んでおるところでございます。

また、企業等につきましても保健所と連携いたしまして、そういった心の健康づくりに取り組んでいる事業、また事業所につきまして、今後とも支援をしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

これ見ると今もふえてるのかわからないんですけど41社、もう少し企業はあるんで、もう少し幅広い企業に周知して、この仲間に入ってもらふ必要があると思いますので、よろしく願いいたします。

それから、健康いといがわ21、これは28年度から35年なんですけど、後期高齢者の自殺への行政の取り組みが書かれております。高齢者は地域活動やボランティアに参加する。また、趣味や生きがいを持つ、行政の役割といたしましては、相談窓口の周知、自殺予防ゲートキーパーや地域の見守り支援などを行うというふうに書かれておりますが、この取り組みはうまく活用されているのか、また自殺予防につながっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

各分野のゲートキーパーの役割を担っている従事者につきまして、毎年、研修を行っていることもありまして、担当課への自殺リスクのある方についての相談や連絡がふえてきております。早期対応の体制がとれているものと考えております。

また、先ほど説明いたしました見守り支援におきましては、高齢者などを見守りネットワークの活動におきまして、高齢者の見守り支援に取り組んでおります。市民全体に向けて心の健康づくりとあわせ、相談窓口を周知しており、近年は、若い方の相談が増加傾向となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

健康いといがわ21には、自殺の現在値と目標値が書かれております。26年の現状値が、10万人当たり17.7というふうに書かれております。12月にできた自殺対策計画のところでは14.5というふうに、これは目標値、21だと減少というふうに、35年の目標値は減少というふうに書かれているんですが、この計画のほうでは14.5というふうに書かれています。私、もう少し、今頑張っておられるんで、一桁の目標を書き込んで、それに向かって一生懸命頑張っていく必要があると思うんですが、それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

第2次健康いといがわ21の平成26年度の現状値につきまして17.7は、県の自殺死亡率を下回っておりまして、平成35年度の目標値を減少とさせていただいておりますが、今回の自殺対策計画では、国・県が、より高い目標を掲げましたので、当市においても平成31年から35年の5年間の平均の自殺死亡率を14.5と目標を高く設定したところです。

目標値についての考え方ですが、もちろんもっと高く設定して、目標に向けて取り組むことも大事であると考えますが、自殺対策は、これまでも数年の期間の中で自殺の実態を踏まえて目標を掲げ、検証・評価しながら取り組みをしてきました。徐々に減少してきておりますので、今後においても段階的に目標を高くし、取り組みを検証しながら進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

今度の計画は14.5ということですが、いきなり一桁というわけにはいかないと思うんですが、やはり高い目標を掲げて、それに向かい大切な命を守っていく必要があるというふうに私は思っております。そうすると職員にも、それ相当の負担がかかるというふうに思うんですが、31年度の当初予算を見ますと、自殺対策推進事業には30万円の予算しか盛ってありません。やはり実のある事業を推進するんなら、もう少し予算をつけることが必要だと思うんですが、30万、ゼロ1つふやせとは申しませんが、必要な予算を盛っていただきたいと思いますが、財政課長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

事業内容が大事であるとは思っておりますが、事業費全てということではないとは考えますけれども、とうとい命を守るための施策でありますので、より効果的な事業実施が見込まれるという状況であれば、事業内容を精査いたしまして、国・県の補助制度もございますので、こういったものも活用する中で、担当課と協議をさせていただき、しっかり対応させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

今、担当課と調整するということですので、もう少し、一生懸命頑張ってますんでね、事

業を拡大できるような予算づけもしていただければありがたいというふうに思っています。

国では、昨年の6月に働き方改革法案が成立しまして、新年度から一部で施行されるところもあります。糸魚川市でも有給休暇の取得の義務化や残業時間の見直しなどが、まだもう少し進んでくのではないかなというふうに思いますが、これが進むことによって自由な時間がもう少しとれるのではないかなというふうに思いますが、今後、働き方改革を適応すると、今以上に働く時間にちよっと余裕が出てくるかなというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

そういった側面もあろうかと思えますけども、いずれにしましても働き方改革によりまして、これまで以上に長期有給休暇等の計画的取得につながるように努めて、いずれにしても働きやすい、そして暮らしやすい形に持っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

そういうところで少し取り組んでもらえれば、少しずつでも心に余裕が出れば、仕事にもミスが少なくなってくるのではないかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次、東京に独立行政法人、国立成育医療研究センターというところがあります。そこで行った調査では、平成27年から28年の間に、妊娠中から産後1年未満の女性について調査を行っております。その調査の間に死亡した357人のうち、102人の女性が自殺で命を落としているということです。そのうちの102人のうち、92人が出産後の自殺であったということでありまして。その中でも35歳以上や初産の割合が高く、子育てへの不安やストレスによる産後鬱が主な原因ということでありまして、糸魚川市でも妊娠から出産後の追跡調査を行っているのか。また産後鬱を発症すると直接育児に影響がすることから、妊婦中の方が鬱にならないための指導や対策もとっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問の成育医療研究センターのような追跡調査は、糸魚川市では実施しておりません。

しかしながら、妊娠届の際の面談、また、マタニティスクールなどの機会に、ご自身の心の状態、悩みやご家族のサポート状況などをお聞きしまして、その後のフォローに努めております。

また、出産後につきましても助産師、保健師が、ご自宅に訪問する新生児訪問、また乳幼児健診などで面談を行いまして、育児不安の解消に努めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

出産後の鬱で自殺する人が大変多いということで、私もびっくりしたんですが、やはり糸魚川市でもそのような調査を続ける必要があるんじゃないかなというふうに思いますので、今後よろしくお願いいたします。

ここの組織で、エジンバラ産後鬱病の問診票というのがあるんですが、これは産後鬱病をスクリーニングするためにイギリスで開発され、既に国内でも使われているということでありまして。これは妊娠中から使用され、妊婦並びに出産後1年未満の女性を対象に使用する問診票です。この問診票により、産後鬱やその他の病気の発見につながるということなんです。この件も糸魚川市で取り組んでいるのか、もし取り組んでいたら、どのように活用してるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問の質問票につきましては、産後鬱の目安を判断するアンケート形式のものであります。市内の産婦人科では、出産した方を対象に実施していただいております。調査の結果、サポートが必要な方につきましては、助産師、保健師が繰り返し訪問することによりまして、不安の解消に努めております。場合によっては、ご家族とも相談しながら医療機関につなげるなどの対応をとっているところがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

ぜひこの問診票、こんなのがたった10問ですけど、問診があるんですね。そんなに細かいことじゃないんで簡単にできると思いますので、これもしっかりと活用していただければなどというふうに思いますし、糸魚川の妊婦の方でも上越のほうへ行っている方がいると思うんですが、上越のほうでもこの問診票というのは使われているのか、確認されて、もしいたらお聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

上越市の産婦人科につきましては、全て聞いてはおりませんが、実施していない産婦人科もございます。

しかしながら、病院の助産師からサポートが必要な方の情報は、随時、市にいただくなど、連携がとれているというふうに思っております。先ほど答弁した内容と同様の対応をとっているところがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

いろいろ役立つということなんで、糸魚川で病院行けば、これはやられてるということなんで、もし手落ちがあって、後で問題が起きて大変なんで、そういう人たちにもやはり問診票というのがあるということをお知らせいただけるような周知をしていただければというふうに思います。

次に、2番目ですが、糸魚川市教育委員会から児童虐待の状況報告がありました。以前からの継続も含めて、児童虐待は36人、20世帯。相談種別として、親の暴言、心理的虐待が15人の9世帯、育児放棄が10人、4世帯、その他暴力や性的虐待となっておりますが、報告では、虐待を受けた年齢層は、小学生が約25人、約じゃないですね、25人で全体の7割で、幼少期からの虐待も多いということですが、今後、この子供たちが心を病んで死を選ばないように、また仲間を死に追いやらないような心のケアをどのように行っているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

虐待など強い精神的苦痛を受けることによりまして、ストレス障害になりやすいと言われております。そのストレスが自分に向かってしまわないように、ましてやほかのお子さんに向かうことのないようにしなければならないというふうに思っています。一度ストレス障害になってしまいますと、回復には長い時間を要するということから、幼稚園・保育園、学校などと連携して、周囲の者が温かく見守って、不安感を取り除くなど、寄り添いながら対応していくことが必要になりますし、先ほど答弁させていただきましたが、場合によっては医療機関につなげるなどの対応が必要であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

今ほど言われたみたいに、幼少期の愛情不足は子供の脳の成長にさまざまな影響を与えるということでもあります。このような影響は、大人になっても続いていくということですが、虐待を受けた子供たちが通う保育園、また幼稚園、園長先生や保育士が、この子供たちのケアに当たれるような知識をお持ちなのかどうか、その1点伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

幼稚園、保育園で虐待を受けた子供の心をケアできるかというご質問かと思いますが、保育士も研修等で日々、理解を深めております。心のケアを含めて見守りが必要なお子さんの対応はできる

ものというふうに思っておりますが、ただ、園だけに任せるのではなく、必要に応じて情報交換を行っております。保健師あるいは臨床心理士などの専門職も含め相談しながら、また子供さんの様子を一緒に確認しながら状況に応じて対応しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

ぜひ勉強会を何回もして、先生たちがケアができるような体制をしっかりと整えていただければありがたいなというふうに思っておるんですが、子供はそういう先生たちが見守ってくれるということですが、親はどうなのかなというふうに私は思っているんですが、お父さんやお母さんが命のとうとさと虐待が及ぼす心の病などを理解していただくことが、非常に必要かなというふうに思っています。虐待をする親は、子供のときの親の愛情が薄かったり、仕事に悩んでいて、つい虐待に走るというようなことがあるということでもあります。暴力を振るう親に適切な治療を受けさせることも虐待防止には欠かせないと思いますが、糸魚川市では、自殺防止対策の観点から、このようなことに何か取り組みをしているのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

自殺防止の観点というより、虐待防止というところが強いのかなというふうに思っておりますが、虐待防止の理解を深めるために、11月に虐待防止月間というものがございまして、それにあわせて幼稚園、保育園、小学校の保護者に対して、しつけと称してたたいたり、どなったりすることは子供の脳の発達に深刻な影響を与えてしまうといった内容のリーフレットを作成して、配布させていただいております。

また、乳幼児健診の際にも保護者に直接、言葉をかけて、手渡しをして、虐待のリスクについて理解していただけるよう取り組んでいるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

そういう取り組みをしてるということで、私も安心しましたが、やはりそういう虐待に走らないような、また、虐待されると、大きくなってからのいろんな事件ということが考えられますので、わかりやすいパンフレットでしっかりと周知していただきたいなというふうに思います。

次に、スクールロイヤー制度について伺います。

スクールロイヤー制度とは、学校で起きるいじめや保護者とのトラブルを法的に解決する弁護士のことです。学校内で問題が起きたときに弁護士会と教育委員会の連携のもと、学校に弁護士が派遣される制度ですが、これはご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

承知しております。また、2019年、ことし4月以降だと思いますが、県教育委員会が試験的に県内4校に配置するという報道も耳にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

この制度は、いじめや保護者とのトラブル、体罰、教員同士のトラブル等、学校で発生する問題の法的解決を目指し、日本弁護士連合会が裁判になってからかかわるのではなく、トラブルが予測されそうな段階から、相談相手として教育や福祉、子供の利権等の視点を取り入れながら、継続的に助言、トラブルの未然防止を行うということでもあります。

今回発表された虐待36人、この事案を担当課だけではなかなか難しいのではないかなというふうに思うんですが、生徒・児童の自殺予防にもつながるような対策もとっているということですので、このスクール制度を県内4校という今話がありましたが、糸魚川市でも早急に活用していただければというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

現在、糸魚川市スクールロイヤーはおりませんが、平成29年度から、いじめ、あるいは保護者への対応が非常に厳しい場合には、学校に支援を行う組織として学校問題解決支援チームというのを設置いたしました。このメンバーの中に弁護士さんが入っておりますので、必要に応じて相談するというようになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

2018年度に、全国で10カ所でスクールロイヤー制度を導入しているということです。これは、いじめが法的にどのような罪になるのかということを生徒たちに伝えて、予防するというのもやっているそうなんです。教員の精神的負担効果にもつながるということで、既にもう港区では、2007年から取り組んでいるということで、岐阜市教育委員会でも岐阜市弁護士会の協力を得まして、スクールロイヤー制度を今年度、導入しております。幼稚園、小中学校、高校、特別支援学校で問題が発生したときには、弁護士に相談し、訴訟問題になると判断すれば、市の顧問弁護士が対応するということでもあります。このようなチームワークで、幼稚園から高校までの見守りを

行っているということで、糸魚川市でも早目にやはり取り組んで、問題が大きくならなければいいんですが、この制度を早く取り入れる必要があると思うんですが、もう一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今ほど石川課長が答弁しましたとおり、現状は学校問題解決支援チームの弁護士でありますとか、市の顧問弁護士への相談で今対応しております。

しかしながら、学校等の実情、あるいは教育委員会全体を考えましても弁護士に相談する、相談したり、判断を仰ぐケースが出てきておりますので、スクールロイヤーを含めた法律の専門家の導入については、市で検討するべき時期ではないかなというふうに考えております。ご提言として受けとめさせていただきます。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

それでは、市長に伺いますが、大人になっても自殺を考えない、また、心や体を育てるのが、市長が進めているゼロ歳から18歳、この時期が大変大事な時期だというふうに思うんです。教育委員会がどのようにかわり、指導していくかによって、糸魚川市も明るい未来につながっていくんじゃないかと思いますが、このスクールロイヤー制度、内容とか金額は、私もまだ細かいところはわからないんですが、今後検討していくことによって、やっぱり職員の負担軽減にもつながるといふことで、専門の組織であることから、やっぱり早急に糸魚川市としてもこれに取り組むという前に、勉強をしていく必要があるんじゃないかなというふうに思うんですが、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういう制度もあるわけでありますが、以前から糸魚川市においては、顧問弁護士と相談するケースが結構あったわけでございまして、それを考えると、実際同じとしても、やはりそういった制度があるということは、教育の場であり、また家庭教育や地域教育の中においても大きく効果的な、また効果が出てくる部分もあると感じておるわけでございまして、その辺検討していきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

顧問弁護士、この場合は専門の弁護士さんが来て、訴訟とかそういう問題になったときに、市の顧問弁護士と話し合いをしながら対応していくということなんで、また違う取り組みができるんじゃないかなというふうに思いますので、よろしくお願ひいたします。

また、市長が今進めているゼロ歳から18歳、これは岐阜県の取り組み、幼稚園から高校までということなんで、それとちょうどタイアップしてるような取り組みでありますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

次に、関連がありますので、3と4を一緒に質問したいと思います。

糸魚川市自殺対策計画、これは新しくできたんですが、今後どのように活用していくのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

糸魚川市自殺対策計画は、生きる支援に係る各課で行っております市の事業を自殺対策として最大限生かし、全庁的な取り組みとして行うこととしております。今後も関係機関と連携し、包括的に自殺対策を推進するために活用し、計画をPDCAサイクルで評価し、幅広い展開となるように活用してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

この自殺対策計画、非常に活用の仕方によっては、物すごく有効なものだなというふうに、私思ってるんですが、これをいかに活用していくか。これはどういうところに配布して活用していくという予定で、これつくられたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

こちらの計画につきましては、関係部署、関係機関、あと病院、医師会、歯科医師会、そういったところに配付いたしまして、活用しているところでございます。市民の皆様におきましては、今後、周知を図るとともに、この計画の位置づけなども、今後周知を図ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

この自殺計画には、市長の思いや自殺の現状、取り組みとか課題、そして重点施策など糸魚川市の現状が書かれております。もう少し、これ簡素化して各家庭に配布して見てもらうということも

必要になってくるのではないかと思うんですが、これを見ると結構細かいんで、もう少しわかりやすいやつを全戸配布するぐらいの対策をとる必要があると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

この自殺に関しては、まずは市民の皆様に関心を持っていただくために、広報いといがわ3月号で特集を組む予定にしております。計画の概要版につきましては、現在、作成も考えておまして、健康いといがわ21につきましても概要版を全戸配布させていただきましたので、同様の様な形のもを今後、全戸配布する予定で取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

こういうものをやはりすぐ手の届くところに、わかりやすい内容で書いていただくことによって、家庭や職場、友達など1人でも多くの人たちに理解していただくことによって、自殺につながる悩みを早目に見つけ出せるのではないかなというふうに思います。これによって大事な命を救えるということもありますので、ぜひ検討して、いいものをつくっていただきたいと思います。

県では、自殺の多くは追い込まれた末の死であり、何らかのサインを発しているというふうに言っております。気づき、つなぎ、見守りという組織や地域、職場、そして家庭の力によって防ぐことができます。一人一人が心の健康問題や自殺の問題に関心を持ち、自殺をさせない地域づくりに取り組むことが大事であるというふうに、県は言っております。今後、敬老会や地区総会、または職場の朝礼など、多くの人たちが集まるところに出向いて、このようなことを周知していく必要も出てくるのではないかなと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

市では、出前講座を行っております、この講座のメニューでゲートキーパー養成講座、あるいは心の健康づくりというのがございまして、そちらを選んでいただいた婦人会ですとか、老人会などにお話を今させていただいております。

また、生活習慣病などの健康教育の際に、当市の健康課題として、改めてこの自殺についてお伝えしたり、またミニ情報として多くの方に伝えるように工夫をしているところでございます。職域につきましても、事業所からの要望については、県と一緒に取り組んでいるところでございます。今後もいろんな機会を通して啓発していくことが大事であると考えておりますので、いろいろ敬老会、またそういった地区のそういった会議がありましたら、また出向いて周知を図ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

私たち地区では、地域ではいろんな会合があるんですが、まだそういうところでこのような話、たまたま私いないときにあったのかもしれませんが、聞いたことがないのでね、そういうところに出かけて、糸魚川市の自殺の現状や対策方法とかというものを、お年寄り向けの何か冊子をつかって、わかりやすいもので話をさせていただければありがたいなというふうに思います。特に年寄りの場合は、お年寄りは外出しない人が多いんで、そういうところに集まってる人たちには、そう問題はないと思うんですが、そこに出てきていない人たちに、いかにこういう情報を浸透させていくかということが大事だと思うんです。そうするとやはり各地区の区長さんとかそういう人たちにお願ひしながら、来ない人たちのところに配ってもらうとか、現状をまた話を聞きにきてもらうとかということをやっぱり進める必要があると思うので、そういったお年寄り向けのちょっと大き目の字で書いたような、そういうマニュアル、冊子もつくる必要があると思うんで、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

おっしゃるとおり出てこられない方へいかに周知するかというのは、本当に課題だと思います。区長さん、あるいは包括支援センターの職員等、また相談させていただいて、各家庭に回る際には、わかりやすいパンフレットなどを配布して、周知に努めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

いろんな会合があっても出てこない人というのは、大体限られているんですよ。何言っても出てこないんですよ。だから、出てこないのならこっちから出向いていくということが大事だと思うんで、やはり区長さんたちからご理解をいただいて、そういうところに配布してもらうというようなことも必要だと思うんで、よろしくお願ひいたします。

私も今回、いろいろと自殺について勉強させてもらって、いろいろわかってきたことがあるんですが、それまでは余り自殺対策というところに興味がなかったといたらおかしいですけど、やってるということを知らなかったんですよ。そういうものも合わせて、やっぱり市民の皆さんに、こっこの冊子を見ると民間でどういうところで何をやってるということも書いてありますので、これをもう少し周知して、皆さんから出かけてもらうということも大事だと思うんですけど、案外皆さん、この自殺についてという集まりとか、そういうのをわかってない人が多いんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

確かに自殺と銘打つとなかなか集まりづらかったりする場合がございますので、皆様お集まりの際に、例えば認知症の予防ですとか、そういったものと絡めまして、こういった自殺の状況ですとか、また予防についてお話をさせていただくように周知に努めてまいりたいと思いますし、また工夫していきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

この自殺対策計画の中で市長が、本市においては国及び新潟県の自殺死亡率を上回る年もあり、対策の強化・充実が求められ、市の自殺実態を踏まえ、自殺対策を見直し、生きる支援に関する既存事業を最大限に生かし、全庁的な取り組みとして定めたというふうに書かれております。

1人の人が亡くなることによって、多くの人たちが悲しみを持ちます。早速あすからでも、この自殺ゼロ目指してもう少し頑張っていたいただきたいことを皆さんにお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を13時といたします。

〈午前11時58分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、吉岡静夫議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

吉岡議員。〔20番 吉岡静夫君登壇〕

○20番（吉岡静夫君）

吉岡であります。

大きくというか、単純に1点に絞りました。